

「職業の選択 ～出会いから始まる仕事～」

塚原 敏夫 氏 (平成2年卒)



小樽商科大学は、1910年に旧制専門学校「官立小樽高等商業学校」として設立された。その後、第2次世界大戦中に小樽経済専門学校と改称。戦後の49年には新制大学へ移行し現在に至っている。

同大学の同窓会組織「緑丘会」は、豊島区池袋の高層ビル「サンシャイン60」の57階に本部（緑丘会館）を置いている。これは、旧制専門学校時代の卒業生で、同ビルを建設した三菱地所社長を11年

われら同窓

緑丘会 小樽商科大学同窓会

小樽商科大学キャンパス内にて (1月25日)

にわたり務めた、故・中田乙二氏（32年卒）の尽力によるもの。中田氏は三菱地所を全国規模の総合デベロップパーに成長させた「中興の祖」として知られる。「北に一星あり、小なれどその輝光強し」という言葉

で示されるように、商大は規模こそ小さいが、中田氏をはじめ多くの人材を日本全国に送り出している。

商大は87年度から、そうした人材が各自の専門分野をもとに講義する「エバーグリーン講座」をおこなっている。金融、サービス、

法曹などさまざまな業種で活動するOBの「生きた」話が聞け、単位認定もされるというところで、開始以来学生から人気を集めている。1月25日、今年度で30年目の節目を迎えた同講座は当日が最終講義だった。

講師を務めたのは三國プランニング副社長の塚原敏夫氏（90年卒）。塚原氏は昨年、上川管内上川町に「上川大雪酒造」を設立し日本酒の醸造を手がけることになった。同社の設立に際しては緑丘会人脈が大いに活躍。酒蔵の名前も「緑

丘蔵」と名付けている。

この日の講義では塚原氏の経歴や同社設立の経緯が語られ、出席した学生たちは真剣に聞き入っていた。写真は講義に集まった緑丘会会員の面々だ。

右から緑丘会札幌支部副支部長の小林信三氏（70年卒）、エバーグリーン講座実行委員長を務めるシンクシステムズ会長の小椋俊秀氏（83年卒）、同札幌支部長でシーズ・ラボ社長の山田二郎氏。その隣は一昨年6月から緑丘会理事長を務めている、元住友商事副社長の島崎憲明氏（69年卒）。網走管内湧別町出身で、現在も多くの役員や公職を務める、商大出身者のトップランナーだ。

さらに塚原氏を挟んで、昆野照美氏（87年卒）、成松郁子氏（80年卒）、宮町比佐子氏（79年卒）は商大の「札幌サテライト」で活動中だ。

（清水）